

<特集「情報標示の諸要素」>

## インドネシア語の情報標示の諸要素 Markers of information structure in Indonesian

佐近 優太  
Yuta Sakon

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿の目的は、特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)におけるアンケート項目に対するインドネシア語のデータを与えることである。

**Abstract:** This report aims to provide the Indonesian data which answers the twenty five survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, which focuses on the cross linguistic study of 'Markers of information structure'.

**キーワード:** インドネシア語、情報標示、とりたて表現、不定表現、なわ張り理論

**Keywords:** Indonesian, information structure, focus-sensitive particles, indefinites, territory of information

### 1. はじめに

本稿では、インドネシア語の連用修飾的複文に関する事項について記述を行う。今回の記述は『語学研究所論集』第22号(2017)の特集テーマ「情報標示の諸要素」のアンケート項目に基づいている。アンケート回答に際しては、執筆者が日本語からインドネシア語<sup>1</sup>に翻訳した後、コンサルタント二名<sup>2</sup>に協力していただき修正を行った。各項目について最初にアンケート原文を提示し、その後インドネシア語の例文及び説明を加える。補足が必要な場合は、アンケート項目外の例文も適宜用いている。アンケート項目外の例文は執筆者が作成し、コンサルタントによるチェックを受けたものである。

### 2. インドネシア語データ

9-1 この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 基本的に書き言葉における標準インドネシア語を用いるが、一部口語体またはインフォーマルな文体も含まれる。そうした場合はその都度明記する。

<sup>2</sup> コンサルタントは Andri Herwanto 氏と Himawan Pratama 氏である。この場を借りて感謝の意を表す。

- (1) (Di) tanah ini sayur=nya tumbuh subur,  
 in land this vegetable=3 grow fertile  
 sehingga (tanah ini) bisa di-jual mahal.<sup>3</sup>  
 as.a.result land this can PASS-sell expensive  
 「この土地は野菜がよく育つ。だからその土地は高く売れる」

統語的必須項ではない名詞も、統語的軸項として機能できる。(1)において、後半部の主語が省略された場合の優先的解釈は *tanah ini* 「この土地」である。そのため、*tanah ini* 「この土地」の標示は義務的ではない。なお、前半部は *di* 「～で」という前置詞句を用いても、前置詞を使わず二重主語文として扱うことも可能である。どちらの場合も後半部の優先的解釈は *tanah ini* 「この土地」である。

9-2 私は頭が痛い。だから今日は休む。

【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

- (2) Saya sakit kepala. Oleh karena itu, tidak masuk hari ini.  
 1SG sick head by because that NEG enter day this  
 「私は頭が痛い。そのため今日は出勤しない」

上記のようにこの場合 *saya* 「私」は統語軸項として機能できる。ただし二文目の主語の標示が義務的でないのはインフォーマルな状況に限られる。フォーマルな状況では *saya* 「私」を明示した方が自然である。

9-3 あの人だけ、時間通りに来た。【限定】<sup>4</sup>

- (3) a. {Hanya/Cuma} orang itu yang datang tepat waktu.  
 only/only person that REL come precise time  
 「あの人だけ、時間通りに来た」  
 b. Orang itu saja yang datang tepat waktu.  
 person that only REL come precise time  
 「あの人だけ、時間通りに来た」

限定を表す語は主に *hanya*, *cuma*, *saja* の3つがある。*cuma* はこの中ではインフォーマルな形とされる。*saja* は焦点となる語の後ろに生起するという点で他と異なる。

<sup>3</sup>二名のコンサルタントのうち、両者が容認できないと判定したものは\*、両者が非文ではないが容認度が低いと判定したものは?、どちらか一方だけが容認した場合など容認度の揺れがあった場合は%、また文法的には正しいが意味がアンケートの日本語訳と異なるものには#の記号を例文に付す。

<sup>4</sup>インドネシア語のより包括的なとりたて表現の研究については原(2019)を参照されたい。

9-4 これはここでしか買えない。【限定・否定との共起】

- (4) a. Ini bisa di-beli di sini saja.  
this can PASS-buy in here only  
「これはここだけで買える」
- b. Ini {hanya/cuma} bisa di-beli di sini.  
this only/only can PASS-buy in here  
「これはここだけで買える」

インドネシア語には日本語の「しか」のように否定極性を持つ語はなく、アンケート原文を言い換えて「ここだけで買える」という訳語に対応する文を作ることになる。この場合(3)と同じように hanya, cuma, saja を使うことができる。

9-5 その家にいたのは子供ばかりだった。【限定・多数】

- (5) a. {Hanya/Cuma} anak-anak yang ada di rumah.  
only/only child-child REL exist in house  
「家にいたのは子供ばかりだった」
- b. Anak-anak saja yang ada di rumah.  
child-child only REL exist in house  
「家にいたのは子供ばかりだった」

日本語の「ばかり」に当たるような限定・多数の表現も、(3)や(4)と同じように hanya, cuma, saja を用いて表すことができる。

9-6 次回こそ、失敗しないようにしよう。【限定・強調】

- (6) a. Kalau lain kali, kita berusaha agar tidak gagal lagi.  
if other time 1PL.INC try so.that NEG fail again  
「今度こそ、もう失敗しないように努力しましょう」
- b. Lain kali sih, kita berusaha agar tidak gagal lagi.  
other time PTC 1PL.INC try so.that NEG fail again  
「今度こそ、もう失敗しないように努力しましょう」

インドネシア語においては日本語の「こそ」のような限定・強調の意を表す語は、基本的には確認されなかった。アンケート原文の日本語に対応する標準的なインドネシア語は条件の接続詞 kalau を用いて表される(6a)。ただし口語の場合は小辞 sih を用いて、似たニュアンスを表すことができる(6b)<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 小辞 sih は様々な用法があり、包括的な説明を与えることが難しい(Sneddon 2006: 126-128)。そのため、

9-7 疲れたね、お茶でも飲もう。【反限定・例示】

- (7) Ayo kita minum teh atau apa=lah.  
let's 1PL.INC drink tea or what=PTC  
「お茶か何かを飲みましょう」

最も自然な形で訳出すると、「お茶、または何か」という形式をとる。日本語の「でも」に相当する語は存在しない。

9-8 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

- (8) a. Asal ada air, kita bisa tahan untuk beberapa hari.  
as.long.as exist water 1PL.INC can endure for several day  
「水さえあれば、数日間は耐えられる」
- b. Kalau ada air saja, kita bisa tahan untuk beberapa hari.  
if exist water only 1PL.INC can endure for several day  
「もし水だけ(でも)あれば、数日間は耐えられる」
- c. #Kalau hanya ada air, kita bisa tahan untuk beberapa hari.  
if only exist water 1PL.INC can endure for several day  
「?もし水だけしかなければ、数日間は耐えられる」

(8a)の asal は「～しさえすれば」の意を表す接続詞であり、アンケート原文を最も適切に訳出できる。(8b)は前述の限定の意味を持つ saja を用いた文であり、「水だけでもあれば」という限定のニュアンスが付加される。ただし同じ限定の標識でもこの場合は hanya を用いることはできない。hanya を用いた(8c)の前半部は文法的には正しいものの「もし水だけしかなければ」という読みになるため、後半部と合致しない。

9-9 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

- (9) a. Anak kecil pun di-suruh membantu pekerjaan itu.  
child small also PASS-order help work that  
「小さい子供も、その仕事を手伝うように命じられた」
- b. Bahkan anak kecil pun di-suruh membantu pekerjaan itu.  
even child small also PASS-order help work that  
「小さい子供でさえも、その仕事を手伝うように命じられた」

---

ここでは Sneddon (2006)が記述する機能のうち as for 「～については」の訳語が与えられるようなトピックの提示的機能を持っていると考えられるが、便宜上グロスは ptc とする。

- c. Sampai anak kecil pun di-suruh membantu pekerjaan itu.  
to child small also PASS-order help work that  
「小さい子供までも、その仕事を手伝うように命じられた」

極端・以外の意味はインドネシア語では累加の意味持つ pun 「～も」で表すことができるが、bahkan 「それどころか、～でさえ」や sampai 「～まで」といった語を追加することによってアンケート原文の意味に近くなる。なお(9b)の bahkan は前提となる文脈を必須とするため、前に「大人はもちろん」などの文を明示する必要がある。(9a), (9c)に関してはそのような明示的な文脈は必須ではない。

9-10 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

- (10) a. Saya tidak butuh uang sama sekali.  
1SG NEG need money same once  
「私はお金をまったく必要としていない」
- b. Kalau sekadar uang, saya tidak butuh.  
if just.a.little money 1SG NEG need  
「単なるお金なら、私は必要ない」
- c. Kalau {hanya/cuma} uang, saya tidak butuh.  
if only/only money 1SG NEG need  
「お金だけなら、私は必要ない」

反極端・低評価を表す日本語の「なんか」に相当する文法化した形式はインドネシア語では確認できない。(10a)では、tidak ~ sama sekali 「まったくない」というフレーズを使うことによって低評価のニュアンスを出している。(10b)は sekadar 「単なる」という語を用いて低評価のニュアンスを付加している例である。(10c)は限定の意味を持つ hanya/cuma を用いて「もしお金だけなら」というように、お金以外のものを想定させて相対的にお金の評価を下げているため、低評価のニュアンスは帯びているが、(10a)と(10b)に比べると原文の意味からは離れていると考えられる。

9-11 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

- (11) a. Bersih-kan=lah setidaknya kamar=mu sendiri.  
clean-CAUS=PTC at.least room=2SG self  
「少なくとも自分の部屋を掃除しなさい」
- b. Bersih-kan kamar=mu sendiri, kan kamar kamu?  
clean-CAUS room=2SG self NEG room 2SG  
「あなたの部屋を掃除しなさい。自分の部屋でしょう」

反極端・最低限の意味は(11a)にあるような setidaknya 「少なくとも」のような語彙的表現を用いて表す。

(11b)では、否定辞 *kan* を用いた付加疑問文を使用することによって、最低限のニュアンスを付与している例である。

9-12 私にもちょうだい。【類似・累加】

(12) a. *Saya juga mau.*  
1SG also want  
「私も欲しい」

b. *Saya {#pun/\*pula} mau.*  
1SG also/also want  
「私さえも欲しい」

累加の意味は *juga* という語で表すことができる(12a)。(9)で用いた *pun* も累加の標識ではあるが「～でさえも」というニュアンスが出てしまい、この場合は適さない(12b)。同様に累加の意味を表す語に *pula* があるが、(12b)にあるように使うことができない。この要因については今後の課題とする。

9-13 お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比（疑問）】

(13) a. *Ayah sudah pulang, bagaimana dengan ibu?*  
father already return how with mother  
「お父さんはもう帰ってきました。お母さんはどうですか」

b. *Ayah sudah pulang, ibu {#juga/\*pun/\*pula}?*  
father already return mother also/also/also  
「お父さんはもう帰ってきました。お母さんもですよ」

アンケート原文の日本語と対応する最も自然なインドネシア語は(13a)のようになる。反類似を表す文法的な標識は現れず、疑問詞 *bagaimana* 「～はどうですか」を使って表現する。口語であれば(13b)のように累加の *juga* を使うことで似た意味を表すことができる。ただしこの場合は母も帰ってきていることを話者が想定しているという文脈に使用が限られる。

9-14 誰か（が）電話してきたよ。【特定未知（specific unknown）】

(14) *Tadi ada {seseorang/(orang)/\*siapa} yang menelepon kamu loh.*  
just.now exist someone/person/who REL call 2SG PTC  
「さっき誰かが君に電話してきましたよ」

最もよくつかわれる形は *orang* 「人」である。またこの場合の *orang* は省略され、先行詞がない関係代名詞の形式が多く用いられる。*seseorang* 「誰か」も文法的な問題はないものの、使用頻度は落ちるといふ。

疑問詞 *siapa* 「誰」はこの場合容認されない。なお、小辞 *loh*<sup>6</sup>については(24)で後述する。

9-15 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

- (15) a. *Mari kita tanya {seseorang/\*siapa}.*  
let's 1PL.INC ask someone/who  
「誰かに聞いてみましょう」
- b. *Mari kita tanya orang lain.*  
let's 1PL.INC ask person other  
「ほかの人に聞いてみましょう」
- c. *Ayo kita tanya siapa, gitu.*  
let's 1PL.INC ask who like.that  
「誰かに聞いてみよう」

非現実不特定の場合は、*seseorang* 「誰か」が最もよく用いられる(15a)。*orang* 「人」は *orang lain* 「ほかの人」というように、やや文意を変えれば容認される(15b)。疑問詞 *siapa* 「誰」は通常容認されないが、(15c)のようにインフォーマルな口語体で用いられる場合は容認される。

9-16 私のいない間に誰か来た？【疑問 (question)】

- (16) a. *Sewaktu saya tidak ada, apakah ada {\*seseorang/(orang)/%siapa} yang datang?*  
when 1SG NEG exist Q exist someone/person/who REL come  
「私がいないうちに、誰か来た？」

疑問文の「誰か」に相当するインドネシア語では、通常 *orang* 「人」しか容認されない。また、この *orang* は(14)と同じように省略することも可能である。ただし、疑問詞 *siapa* 「誰」を用いるパターンは地方語であるジャワ語・スンダ語では観察されるため、その類推からインドネシア語の場合でも容認する話者も存在する。

9-17 誰か来たら、私に教えてください。【条件節内 (conditional)】

- (17) *Kalau ada {seseorang/orang/%siapa} yang datang, tolong kasih tahu saya.*  
if exist someone/person/who REL come please give know 1SG  
「もし誰か来たら、私に教えてください」

条件節内の場合は *seseorang* 「誰か」と *orang* 「人」が容認される。疑問詞 *siapa* 「誰」は(16)と同様、地方語からの影響で話者によって容認度が異なる。

---

<sup>6</sup> *loh* は *lho* または *lo* と綴られる場合がある(Sneddon 2006: 123)。

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。【間接（全部）否定（indirect negation）】

- (18) a. Saya pikir sepertinya hari ini tidak akan ada orang yang datang.  
1SG think seem day this NEG will exist person REL come  
「今日来る人はいないだろうと思う」
- b. Saya pikir sepertinya hari ini tidak {seseorang/se-orang} pun yang akan datang.  
1SG think seem day this NEG someone/one-person also REL will come  
「今日は来る人は一人もいないと思う」
- c. ?Saya pikir sepertinya siapa pun tidak akan datang hari ini.  
1SG think seem who also NEG will come day this  
「今日は誰も来ないと思う」

アンケート原文に対して最もよく使われる表現は(18a)である。やや表現を変え、累加の pun 「～も」を伴った形で seseorang 「誰か」を用いることができるが、orang に接辞 se- 「ひとつの」を追加した形の方がより自然である(18b)。また siapa はこの場合非文法的ではないが、容認度は低い(18c)。

9-19 そこには今誰もいないよ。【直接（全部）否定（direct negation）】

- (19) a. Sekarang di situ tidak ada {seseorang/se-orang/siapa} pun loh.  
now in there NEG exist someone/one-person/who also PTC  
「今そこには誰もいないよ」
- b. Sekarang di situ tidak ada siapa-siapa, loh.  
now in there NEG exist who-who PTC  
「今そこには誰もいないよ」
- c. Sama sekali tidak ada orang di situ sekarang, loh.  
same once NEG exist person in there now PTC  
「今そこには誰もいないよ」

全部否定の場合は seseorang 「誰か」、(se)orang 「人」、siapa 「誰」のすべてを使用することができる(19a)。別表現として、疑問詞の重複を用いる例(19b)と、(10)で説明したような tidak ~ sama sekali 「まったく～ない」を用いる例(19c)がある。

9-20 (それは)誰でもできる。【自由選択（free-choice）】

- (20) a. Itu sih {\*seseorang/\*orang/siapa} pun bisa.  
that PTC someone/person/who also can  
「それは誰でもできる」

- b. Itu sih semua (orang) juga bisa.  
that PTC all person also can  
「それはみんなもできる」

自由選択の場合は疑問詞 *siapa* 「誰」のみが許容される。また別表現として *semua* 「すべて」を用いる方法がある。

9-21 そんなこと (は)、みんな知っているんじゃないか!? 【自由選択を示す「みんな」】

- (21) a. Itu sih semua (orang) juga tahu hal itu.  
that PTC all person also know thing that  
「そのことは、みんなも知っているんじゃないか」
- b. Itu sih {\*seseorang/\*orang/siapa} pun tahu hal itu.  
that PTC someone/person/who also know thing that  
「そのことは、誰でも知っているんじゃないか」
- c. Itu sih orang-orang tahu hal itu.  
that PTC person-person know thing that  
「そのことは、人々は知っているんじゃないか」

自由選択を示す「みんな」に関して、最も基本的な表現は *semua* 「すべて」という語を用いたものである(21a)。加えて(21b)のように疑問詞 *siapa* 「誰」に累加の *pun* 「～も」を用いて、(20)と同じ表現を用いることも可能である。この場合も *seseorang* 「誰か」と *orang* 「人」は容認されない。ただし(21c)のように *orang* 「人」の重複形を使うことで、「人々は知っている」と似た意味を表すことはできる。

9-22 そんなもの、誰が買うんだよ!? 誰も買うわけじゃないか! 【反語】

- (22) a. Siapa (yang)<sup>7</sup> akan membeli barang seperti itu.  
who REL will buy thing like that  
Pasti tidak ada yang akan membeli=nya.  
sure NEG exist REL will buy=3  
「誰がそんなものを買うんだよ。絶対にそれを買う人はいません」
- b. Mana ada {\*seseorang/(orang)} yang mau beli.  
where exist someone/person REL want buy  
「どこにそれを買いたい人がいるんだ」

「誰が～するか」という反語は基本的に(22a)のように疑問詞 *siapa* 「誰」を用いる。加えて、場所の疑問

<sup>7</sup> 反語表現でない「誰がそんなものを買ったんですか」という通常の疑問文の場合、関係代名詞 *yang* は義務的となる。

詞 *mana* 「どこ」を用いて、「どこにそんな～がいるか」というフレーズを用いて反語を表す方法もある(22b)。この場合 *seseorang* 「誰か」は容認されない。*orang* 「人」については、(14)や(16)のようにしばしば省略される。

以上の議論を Hasplemath (1997)及び、それを語学研究所論集第 22 号のアンケート項目に合わせて改変した風間(2017)の意味地図に当てはめると、暫定的な結果は以下ようになる。今回は判断が曖昧であったり、話者間で容認度の差が生じる用例があったため、話者間の出生地・年代などの差異が把握できるようコンサルタント調査を行うなど、より精緻な調査が求められる。

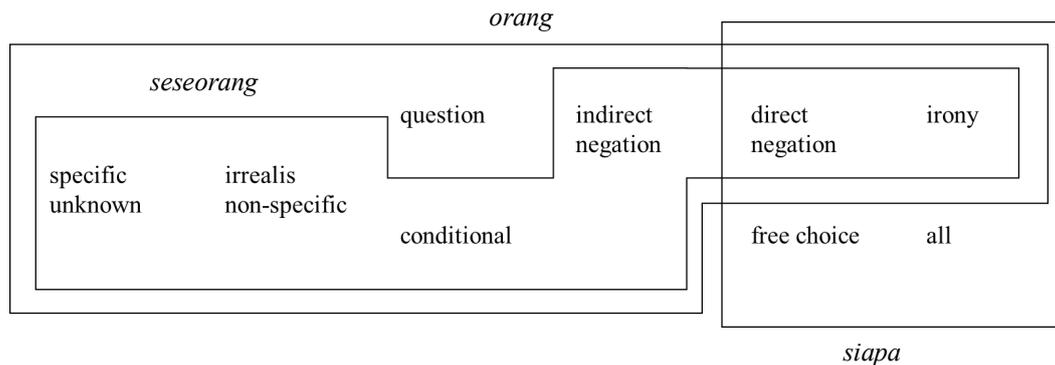


図 1: インドネシア語の不定表現の意味地図

9-23 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

- (23) a. *Kamu pintar bahasa Inggris, ya.*  
 2SG wise language English PTC  
 「君は英語がうまいね」
- b. *Kok kamu pintar bahasa Inggris.*  
 PTC 2SG wise language English  
 「君は英語がうまいんだね」
- c. *#Sepertinya kamu pintar bahasa Inggris.*  
 seem 2SG wise language English  
 「君は英語がうまいようだね」

話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内の場合には *ya* という小辞が使用される(23a)。*ya* の最も基本的な機能は付加疑問的な相手に同意を促す文の形成とされており(Sneddon 2006: 128)、そのニュアンスが(23a)にも表れていると考えられる。他の選択肢として小辞 *kok* がある(23b)。ただしこの場合は、意外性のニュアンスを伴う。また日本語との対応を考えると(23c)の *sepertinya* 「～のようだ」も考えられるが、この場合は実際に相手の発話を聞いたわけではなく、外部からの情報による判断の解釈が優先されるため、文意に合わない。

9-24 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

- (24) Kamu \*(kelihatan) bosan, {ya/loh}.  
2SG look bored PTC/PTC  
「君は退屈そうに見えるね」

話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内の場合の最も基本的な形式は(24)の loh である(cf. (14), (19))。Loh は通常、強調や念押しの機能を持つとされる(Sneddon 2006: 124)。一方で、(23)にあるような ya も使用可能である。ただしどちらも kelihatan 「～に見える」と共起しなければ使用できない。もし小辞 ya 単独で用いられた場合は「君は退屈しているね」「君は退屈しているだろ」というような決めつけの文になる。

9-25 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

- (25) Besok juga agaknya dingin, {loh/deh}.  
tomorrow also seem cold PTC/PTC  
明日も寒いらしいよ。

話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外の場合は小辞 loh または deh が用いられる。deh は一般的に「相手に自分の言ったことを納得するよう促す」機能を持つとされる(Sneddon 2006: 118)。

以上のなわ張りによる小辞の差異は以下のようにまとめられる。表内の「間接」という用語は神尾(1990)に則り、「～そうだ」というモダリティを表す語が義務的であることを表している。

		話し手のなわ張り	
		内	外
聞き手のなわ張り	外	標示なし	間接+loh/deh
	内	ya, (kok)	間接+loh/ya

略号一覧

1: first person, 2: second person, 3: third person, CAUS: causative, INC: inclusive, NEG: negation, PASS: passive voice, PL: plural, PTC: particle, Q: question marker, REL: relative, SG: singular

参考文献

原真由子. 2019. 「インドネシア語のとりたて表現」, 野田尚史(編)『日本語と世界の言語のとりたて表現』, pp.145-162.

Haspelmath, Martin. 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.

神尾昭雄. 1990. 『情報のなわ張り理論』. 東京: 大修館書店.

風間伸次郎. 2017. 「まえがき (テーマ企画: 特集「情報標示の諸要素」)」, 『語学研究所論集』22, pp.25-45.

Sneddon J Neil. *Colloquial Jakartan Indonesian*. Canberra: Pacific Linguistics, Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.

執筆者連絡先 : sakon.yuta.n0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2021 年 12 月 20 日